

— 図学 (2.0単位) —

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	1 年前期	1 年前期	1 年前期
選択 / 必修	必修	必修	必修
教員	各教員 (教務)		

本講座の目的およびねらい

3次元空間にある図形(点, 線, 面および立体)を2次元の平面上に表現(作図)すること, また表現された図から3次元図形を計量的・幾何学的に解析する種々の問題を扱うことにより, 空間的図形情報の把握・表現能力を養う. 達成目標 1. 投影の概念の習得 2. 投影法の基礎と応用・実際の習得 3. 点, 線, 平面相互関係の図表現法の習得 4. 立体の展開, 切断面, 相貫線の基本の習得

バックグラウンドとなる科目

特になし

授業内容

1. 図学の基本事項
2. 投影法の基礎
3. 正投影法(点の投影, 直線の投影, 平面の投影)
4. 副投影法(点の投影, 直線と直線・平面と直線・平面と平面の相互関係)
5. 切断法
6. 多面体と断面
7. 曲線と曲面
8. 立体の相互関係
9. 軸測投影
10. 期末試験

教科書

「可視化の図学」(図学教育ワークショップ2016編著, 三恵社) 必要に応じて演習課題のプリントを配付.

参考書

特になし。

評価方法と基準

講義内容の理解度を確認する期末試験のみで評価し, 100点満点で60点以上を合格とする。(長坂)

講義内容の理解度を確認する演習課題での得点を30%, 期末試験での得点を70%で評価し, 合計点が100点満点で60点以上を合格とする。(中島)

履修条件・注意事項

作図用器具(最初の講義で説明)を持参.

質問への対応

担当教員連絡先:

長坂今夫0568-51-9416(直通) nagasaka@isc.chubu.ac.jp

中島公平052-838-2164(直通) nakasima@meijo-u.ac.jp

質問は講義終了後教室で受ける. それ以外は, 事前に担当教員に電話かメールで時間を打ち合わせる.

数学 1 及び演習 (3.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	1 年後期	1 年後期	1 年後期
選択 / 必修	必修	必修	必修
教員	伊藤 伸太郎 准教授	飯盛 浩司 助教	

本講座の目的およびねらい

専門基礎科目 B として数学及び物理学等を学んだ後，工学の専門科目を学ぶための基礎となる数学を学ぶ．微分方程式及びベクトル解析の知識を系統的に習得し，理論と応用の結びつきを理解する．

バックグラウンドとなる科目

数学基礎 I，II，物理学基礎 I

授業内容

1．常微分方程式・1 階の微分方程式・2 階の微分方程式・高階微分方程式と線形微分方程式
: 2．ベクトル解析・ベクトル代数・曲線と曲面・場の解析学

教科書

常微分方程式 : E. クライツィグ著: 北原和夫・堀素夫共訳: (培風館)

工学・物理のための基礎ベクトル解析: 畑山明聖，櫻林徹: (コロナ社)

参考書

評価方法と基準

試験及び演習レポート

履修条件・注意事項

質問への対応

数学 2 及び演習 (3.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2 年前期	2 年前期	2 年前期
選択 / 必修	必修	必修	必修
教員	新美 智秀 教授 香川 高弘 助教	田地 宏一 准教授	松田 佑 准教授

本講座の目的およびねらい

数学 1 及び演習に引き続き，専門科目を学ぶ基礎力を身につけるため，工学上重要な方法であるフーリエ解析と基本的な偏微分方程式への応用，およびラプラス変換と常微分方程式への応用について講義する．それとともに，数学的思考方及び具体的問題に現れる理論と応用との結び付きを身につける．

達成目標

- 1．フーリエ級数展開及びフーリエ変換・逆変換の基礎を理解し計算ができる．
- 2．簡単な偏微分方程式の導出でき，その解を求めることができる．
- 3．ラプラス変換の基礎を理解し，常微分方程式の解法に応用できる．

バックグラウンドとなる科目

数学基礎 I，II，III，IV，V，数学 1 及び演習

授業内容

- 1．フーリエ級数とその性質
- 2．フーリエ積分およびフーリエ変換・逆変換
- 3．基礎的な偏微分方程式（楕円型・双曲型・放物型）の導出
- 4．偏微分方程式の解法
- 5．ラプラス変換とその性質
- 6．ラプラス変換を用いた常微分方程式の解法
- 7．離散フーリエ変換とFFT

教科書

工学基礎 フーリエ解析とその応用 [新訂版]：畑上 到 著（数理工学社，2014）

参考書

評価方法と基準

期末試験100%，ただし，演習課題の提出率が90%未満のものは受験資格無し．

平成 2 3 年度以降入学者

100～90点：S，89～80点：A，79～70点：B，69～60点：C，59点以下：F

平成 2 2 年度以前入学者

100～80点：優，79～70点：良，69～60点：可，59点以下：不可

履修条件・注意事項

質問への対応

講義全般については松田，田地，演習問題については演習担当教員，およびTAへ．
時間外の質問は事前に担当教員にメールで打ち合わせておくこと．

解析力学及び演習(2.5単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2年前期	2年前期	2年前期
選択/必修	必修	必修	必修
教員	長谷川 達也 教授 佐久間 臣耶 助教	丸山 央峰 准教授	渡邊 智昭 助教

本講座の目的およびねらい

ニュートンの運動方程式を学習した上で、より普遍的なハミルトンの原理に基づいたラグランジュの運動方程式について理解し、具体的な問題を解析する方法を学ぶ。また、正準方程式と正準変換、振動の一般論について学習する。

達成目標

1. 仮想仕事の原理とハミルトンの原理を理解し、説明できる。
2. ラグランジュの運動方程式を理解し、具体的な問題を解析できる。
3. 正準方程式と正準変換を理解し、説明できる。
4. 振動の一般論を理解し、説明できる。

バックグラウンドとなる科目

(全学教育科目) 数学、力学1、力学2
(工学部専門系科目) 数学1及び演習

授業内容

1. 仮想仕事の原理(仮想変位、安定・不安定)
2. 変分法(オイラー微分方程式、未定乗数法)
3. ダランベールの原理(慣性抵抗)
4. ハミルトンの原理(ラグランジアン、測地線)
5. ラグランジュの運動方程式(一般化座標・力、質点系の運動)
6. 正準方程式(一般化運動量、ハミルトン関数、ルジャンドル変換)
7. 正準変換(Hamilton-Jacobiの偏微分方程式、ポアソンの括弧式)
8. 振動の一般論(平衡条件、直交関係、規準振動)

教科書

力学II: 原島鮮(裳華房)、必要な場合にはプリントで補充する。

参考書

初等物理学ノート(1): 柏村昌平編(学術図書出版社)、
力学I: 原島鮮(裳華房)

評価方法と基準

期末試験(80%)、提出課題(20%)で評価する。

総合点100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: Fとする。
但し、平成22年度以前の入学者については、100~80点: 優, 79~70点: 良, 69~60点: 可, 59点以下: 不可とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

質問への対応: 講義中、講義終了時、又はメールで連絡。
担当教員連絡先: 丸山(内5026、hisataka@mech)、
長谷川(内4506、t-hasegawa@esi)

材料力学及び演習(2.5単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	2年前期	2年前期	2年前期
選択/必修	必修	必修	必修
教員	荒井 政大 教授 徳 悠葵 助教	巨 陽 教授 後藤 圭太 助教	森田 康之 准教授

本講座の目的およびねらい

材料の応力、ひずみおよび変形の基礎を学ぶ。

達成目標：

1. 応力とひずみを理解する。
2. 棒の引張・圧縮、梁の曲げ、棒の捩りの応力と変形を解析できる。
3. 組合せ応力解析およびひずみエネルギーを理解できる。

バックグラウンドとなる科目

力学、微分積分学

授業内容

1. 応力とひずみ
2. 引張と圧縮
3. はりの曲げ
4. 丸棒のねじり
5. 組合せ応力
6. ひずみエネルギー
7. 長柱の座屈

教科書

図解はじめての材料力学：荒井政大 著（講談社） 材料力学：田中啓介・木村英彦 共著（培風館）（担当教員の指示を受けること）

参考書

講義の進行に合わせて適宜紹介する。

評価方法と基準

試験及び演習レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上100点までをSとする。但し、平成22年度以前の入学者については、80点以上をAとする。

履修条件・注意事項

質問への対応

授業時に対応する。

担当教員連絡先：

荒井教授（内線4408, arai@nuae.nagoya-u.ac.jp）,
巨教授（内線4672, ju@mech.nagoya-u.ac.jp）,
森田准教授（内線4673, morita@mech.nagoya-u.ac.jp）,
後藤助教（内線4410, goto@nuae.nagoya-u.ac.jp）,
徳助教（内線5122, toku@mech.nagoya-u.ac.jp）

固体力学(2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2年後期	2年後期	2年後期
選択/必修	選択	選択	必修
教員	水野 幸治 教授	池田 忠繁 准教授	

本講座の目的およびねらい
弾性力学の基礎理論について学ぶ。

達成目標

1. 三次元弾性体に対し、平衡方程式、歪と変位の関係、適合条件式、応力と歪の関係、境界条件を理解し、説明できる。
2. エネルギーに関する定理を理解し、それを利用し問題を解くことができる。
3. 平面問題に対し、エアリの応力関数を用いて問題を解く方法を理解し、それを利用し問題を解くことができる。
4. 板の曲げの微分方程式、境界条件の導出過程を理解し、説明できる。また、長方形板の曲げ問題を解くことができる。
5. 大たわみ理論および座屈理論を理解し、説明できる。

バックグラウンドとなる科目

材料力学及び演習
力学1及び演習

授業内容

1. 応力とひずみ(3次元の一般論)、応力とひずみの関係(弾性方程式): 2. 弾性力学の諸定理: 3. 二次元弾性問題: 4. 平板の曲げ: 5. 大たわみ理論と座屈理論

教科書

弾性力学: 小林繁夫、他(培風館)

参考書

評価方法と基準

試験により目標達成度を評価する。中間試験(50%)および期末試験(50%)を基に、総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。

履修条件・注意事項

質問への対応

クラスA

随時受け付ける。講義時間以外の時間帯は、事前に担当教員にメールか電話で問い合わせること

担当教員連絡先: kmizuno@mech.nagoya-u.jp

クラスB

随時受け付ける。講義中に知らせるweb上の掲示板を利用してもよい。

連絡先:E-mail: ikeda@@nuae.nagoya-u.ac.jp

材料科学第1(2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	2年後期	2年後期	2年後期
選択/必修	必修	必修	選択
教員	森田 康之 准教授		

本講座の目的およびねらい

材料の微視的構造を原子レベルから学ぶとともに、平衡や反応に関する熱力学を学習する。これによって、微視構造から材料の性質を理解する考え方を習得する。達成目標 1. 結晶構造や微視組織等の材料の内部構造を理解し、説明できる。 2. 格子欠陥、転位、粒界などの内部欠陥について理解し、説明できる。 3. 平衡状態および反応に関する熱力学を理解し、説明できる。

バックグラウンドとなる科目

特になし

授業内容

1. 「材料科学」の概要 2. 原子中の電子構造と原子間力 3. 原子配列と結晶構造 4. 結晶構造中の点欠陥、線欠陥および面欠陥 5. 熱力学と相平衡 6. 2成分系の平衡状態図 7. 反応速度論、拡散および相変態

教科書

材料科学1：バレット他(培風館)

参考書

評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験80%、レポート課題提出物および受講態度20%で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。

連絡先: okumura@mech.nagoya-u.ac.jp, ext. 2671, morita@mech.nagoya-u.ac.jp, ext. 4673

履修条件・注意事項

質問への対応

適宜受け付ける。

流体力学基礎第1及び演習(2.5単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	1年後期	1年後期	1年後期
選択/必修	必修	必修	選択
教員	酒井 康彦 教授	山口 浩樹 准教授	岩野 耕治 助教

本講座の目的およびねらい

流体の基礎的特性を学ぶとともに、理想流体の流動を支配する法則をニュートン力学を用いて学ぶ。

達成目標：

1. 流体の性質と静止流体力学の原理を理解し、関連する計算ができる。
2. 流体の運動方程式とそれに基づくエネルギー保存則を理解し、関連する計算ができる。
3. 運動量の法則を理解し、具体的な応用計算ができる。

バックグラウンドとなる科目

数学1及び演習

授業内容

1. 単位と流体の性質
2. 静水力学
3. 理想流体の基礎方程式
4. 運動量の法則

教科書

詳解 流体力学演習：吉野章男，菊山功嗣，宮田勝文，山下新太郎 共著，共立出版

参考書

「流体力学」，JSME テキストシリーズ，日本機械学会編，丸善

Aコース：水力学に関する教科書

例) 流体の力学 水力学と粘性・完全流体力学の基礎，松尾一泰著，オーム社
流体システム工学，菊山功嗣・佐野勝志著，共立出版

評価方法と基準

定期試験と演習レポート：定期試験80%，演習レポート20%で評価し，100点満点で60点以上を合格とする。定期試験の欠席者は「欠席」とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義あるいは演習終了時に対応する。

熱力学及び演習（2.5単位）

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2 年前期	2 年前期	2 年前期
選択 / 必修	必修	必修	必修
教員	笠原 次郎 教授	長野 方星 教授	松岡 健 助教

本講座の目的およびねらい

すべての物理現象の巨視的な理解の基礎となる現象論的な古典熱力学の基礎概念、物理的意味および計算方法を習得する。また、マクロな概念のミクロな物理的意味を理解する。

達成目標

1. 熱平衡、熱力学第1法則および熱力学第2法則を理解し、説明できる。
2. エントロピー、自由エネルギー等の熱力学関数とその関係式を理解する。
3. 平衡条件や相変化・化学反応に関する初等的知識を習得する。
4. 簡単な気体分子運動論を学習し、マクロな熱力学の理解を深める。

バックグラウンドとなる科目

(全学教育科目) 数学、化学基礎 1

授業内容

1. 単位系と次元、熱平衡、温度
2. 状態方程式、偏微分公式
3. 熱力学第 1 法則
4. 熱力学第 2 法則
5. エントロピー
6. 熱力学関数
7. 平衡条件と熱力学不等式
8. 相平衡と化学平衡
9. 分子運動と熱力学

教科書

熱力学：JSMEテキストシリーズ（日本機械学会）

参考書

評価方法と基準

期末試験と提出課題で評価する。

総合点100～90点：S，89～80点：A，79～70点：B，69～60点：C，59点以下：Fとする。

但し、平成22年度以前の入学者については、100～80点：優，79～70点：良，69～60点：可，59点以下：不可とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

質問への対応：

講義中、講義終了時、又は電話かメールで連絡。

担当教員連絡先：

笠原（内4404、kasahara@nuae）

伝熱工学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3年前期	3年後期	3年後期
選択 / 必修	選択	選択	必修
教員	成瀬 一郎 教授	長野 方星 教授	

本講座の目的およびねらい

熱移動の基本形態である熱伝導，対流熱伝達，熱放射の基本的な概念と物理的意味を理解するとともに，その応用である熱交換器等の理論について学び，伝熱工学の基礎理論を習得する． 達成目標 ・フーリエの法則により，定常および非定常熱伝導現象を理解できる． ・強制および自然対流熱伝達の物理的メカニズムについて説明できる． ・熱放射の基本法則を理解して閉空間内面熱放射について説明できる． ・熱交換器の設計手法を習得する．

バックグラウンドとなる科目

熱力学及び演習，エネルギー変換工学，流体工学第1及び演習，流体工学第2，数学1及び演習，数学2及び演習

授業内容

1．伝熱機構の概要 2．熱伝導 熱伝導の法則と熱伝導方程式・定常熱伝導・非定常熱伝導
3．対流熱伝達 強制対流・自然対流・総括熱伝達 4．熱放射 熱放射の基本法則・射出率と角関係・閉空間理論 5．熱交換器 並流・向流・NTU

教科書

必要に応じプリントを配布

参考書

伝熱概論：甲藤好郎著（養賢堂），伝熱学：西川兼康・藤田恭伸共著（理工学社）

評価方法と基準

試験(90%)と出席率(10%)で評価．

履修条件・注意事項

質問への対応

メールにて対応

設計基礎論（2.0単位）

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3 年前期	3 年前期	3 年前期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	森田 康之 准教授		

本講座の目的およびねらい

機械構造物の製作に際して必要となる機械設計法について、その基礎的知識を習得する。機械設計の基本的概念および材料選択に必要な諸特性を理解することによって、要素設計における問題点を把握するとともに、設計に際して必要とされる解析手法を学ぶ。

達成目標

1. 機械設計の基本概念を理解し、説明できる。
2. 機械材料の諸特性を理解し、説明できる。
3. 耐用期間に応じた要素設計ができる。
4. 稼働条件に応じた寿命評価ができる。

バックグラウンドとなる科目

材料科学第 1，材料力学及び演習，固体力学

授業内容

1. 機械設計の方法論
2. 機械材料の概説
3. 強度設計の基礎
4. 生産設計との関連事項

教科書

プリントを用意し、適宜配布する。

参考書

機械設計便覧，機械設計便覧編集委員会，丸善

評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等である。 期末試験90%，課題レポートを10%で評価し，100点満点で60点以上を合格とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

適宜受け付ける。

連絡先：morita@mech.nagoya-u.ac.jp

内線：4673

機構学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2年後期	2年後期	2年後期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	山田 陽滋 教授	長谷川 泰久 教授	

本講座の目的およびねらい

本授業は、機械システムの要素となるいろいろな機構とそれらの運動解析手法に関する講義である。機械の運動解析の基本となる剛体の運動学を復習し、リンク機構をベースとして、機構の基本要素に関する運動解析手法が説明される。これはさらに、ロボットマニピュレータに代表される複雑な機構のモデリングと解析へと展開される。また、歯車や摩擦車等種々の伝達機構も記述する。これらの内容は、例題によって理解が助けられる。

バックグラウンドとなる科目

微分積分学 および、ベクトルおよび行列、力学 および

授業内容

1. 機構の基本概念と用語 2. 機構の運動 (並進 / 回転, 瞬間中心, 速度と加速度) 3. さまざまな運動伝達機構 (摩擦車, カム, 歯車, ベルト車) 4. リンク機構 5. ロボットの運動学 (同次変換, 静力学)

教科書

プリント資料を配布する。

参考書

1. 一般的・伝統的な機構学に関しては以下の書籍が詳しい。
 - 1) 安田仁彦: 改訂機構学, コロナ社, 2005, ISBN 978-4-339-04069-2
 - 2) 日本機械学会: 機構学, 丸善, 2008, ISBN 978-4-88898-167-5
 - 3) Hamilton H. Mabie, Charles F. Reinholtz: Mechanisms and Dynamics of Machinery, John, Wiley, and Sons, Inc., 1987, ISBN 13-978-0-471-80237-2
 - 4) Asok Kumar Mallik, Amitabha Ghosh, Gunter Ditttrich: Kinematic Analysis and Synthesis of Mechanisms, CRC Press Inc., 1994, ISBN 0-8493-9121-0

2. 3次元の運動学的解析に関してはロボット工学関係の教科書が参考になる。たとえば、

- 1) 吉川恒夫: ロボット制御基礎論, コロナ社, 1988, ISBN 978-4-339-04130-9
- 2) Tsai, Lung-Wen: Robot analysis: the mechanics of serial and parallel manipulators, John, Wiley, and Sons, Inc., 1987, ISBN 0-471-32593-7

評価方法と基準

宿題レポート (55%) および中間試験 + 期末試験 (45%) の得点によって評価を行う。

履修条件・注意事項

質問への対応

授業中の質問を歓迎する。授業後は、TAが窓口になって質問に対応する。

電子メールアドレス: yamada-yoji@mech.nagoya-u.ac.jp

振動学及び演習 (2.5単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2年後期	2年後期	2年後期
選択/必修	必修	必修	必修
教員	井上 剛志 教授	岡本 正吾 講師	安藝 雅彦 助教

本講座の目的およびねらい

この講義では、機械の動的設計や構造解析を行うときに必要となる振動工学の基礎を学習する。また、多くの演習問題を解くことにより、具体的な問題を解く応用力を養う。

バックグラウンドとなる科目

力学1及び演習、力学2及び演習、機構学

授業内容

1. 振動と波動の解析 (運動方程式, 調和関数, フーリエ級数)
2. 1自由度系の自由振動 (無減衰系の自由振動, 減衰系の自由振動)
3. 1自由度系の強制振動 (無減衰系の強制振動, 粘性減衰系の強制振動, クーロン減衰系の強制振動, 振動絶縁)
4. 2自由度系の振動 (自由振動, 強制振動, 動吸振器)
5. 多自由度系の振動 (モード解析, 固有値と固有ベクトル, 基準座標, ラグランジュの方程式)

教科書

石田幸男・井上剛志著, 「機械振動工学」, 培風館

参考書

評価方法と基準

筆記試験 (80%) と提出課題 (20%) を基に, 総合的に100点満点で60点以上を合格とし, 60点以上69点までをC, 70点以上79点までをB, 80点以上89点までをA, 90点以上をSとする。

ただし, 平成22年度以前入学者については次の通り:

60点以上69点までを可, 70点以上79点までを良, 80点以上を優とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

質問への対応: 講義終了時を主とするが, メールで予約すればそれ以外の時間も可。

制御工学第1及び演習(2.5単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	2年後期	2年後期	2年後期
選択/必修	必修	必修	必修
教員	浅井 徹 准教授 有泉 亮 助教	関山 浩介 准教授	中島 正博 助教

本講座の目的およびねらい

伝達関数と周波数応答法に基づく制御系設計の考え方を学ぶ。

本講義と後に学ぶ「制御工学第2」の修得によって、制御工学の基礎力と応用力を養う。

達成目標：

1. 伝達関数，ブロック線図が理解でき，基礎的な力学系，電気回路などの制御対象に対して，伝達関数，ブロック線図が求められる。
2. 周波数特性が理解・説明でき，その図的表現の概形を作成できる。
3. フィードバック制御系の安定性、過度特性、定常特性が理解・説明できる。

バックグラウンドとなる科目

授業内容

1. 制御系設計の概要(古典制御)
2. 制御系のモデリング
3. 特性の解析
4. 周波数応答とボード線図
5. 安定性の判定法と安定余裕
6. 制御系設計

教科書

古典制御論，吉川恒夫 著，昭晃堂

参考書

自動制御工学概論(上)，伊藤正美 著，昭晃堂

システムと制御，早川義一編，オーム社

評価方法と基準

中間試験、期末試験、演習レポートを基に、総合点60点以上を合格とし、

・平成23年度以降入学者：

100～90点を「S」、89～80点を「A」、79～70点を「B」、69～60点を「C」、59点以下を「F」とする。

・平成22年度以前入学者：

100～80点を「優」、79～70点を「良」、69～60点を「可」、59点以下を「不可」とする。

である。

履修条件・注意事項

質問への対応

制御工学第2 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	3年前期	3年前期	3年前期
選択/必修	選択	必修	必修
教員	浅井 徹 准教授	椿野 大輔 講師	

本講座の目的およびねらい

状態空間法に基づく時間領域での制御系設計手法の基礎を学ぶ。

前に学んだ「制御工学第1」と本講義の修得によって、制御工学の基礎力および応用力を養う。

達成目標：

1. 可制御性、可観測性を理解し判定できる。
2. レギュレータを設計できる。
3. 状態観測器を設計できる。

バックグラウンドとなる科目

制御工学第1及び演習

授業内容

1. 状態空間法に基づく制御系設計の概要
2. モデリング (システムの状態と状態方程式, 状態方程式の解と安定性, 状態方程式と伝達関数)
3. システムの解析 (可制御性と可観測性, システムの構造, 実現問題)
4. レギュレータ問題 (状態フィードバックと極配置, 最適制御)
5. 状態観測器 (完全次元オブザーバー, 最小次元オブザーバーとその設計法)

教科書

吉川, 井村: 現代制御論 (コロナ社)

参考書

伊藤: 自動制御概論 (下) (昭晃堂)

早川 他: 新インターユニバーシティ システムと制御 (オーム社)

評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験60%, 課題レポートを40%で評価し, 100点満点で60点以上を合格とする。

・平成23年度以降入学者:

100~90点を「S」, 89~80点を「A」, 79~70点を「B」, 69~60点を「C」, 59点以下を「F」とする。

・平成22年度以前入学者:

100~80点を「優」, 79~70点を「良」, 69~60点を「可」, 59点以下を「不可」とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義時に指示する。

____計算機ソフトウェア第1 (2.0単位)____

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	1年前期	1年前期	1年前期
選択 / 必修	必修	必修	必修
教員	松本 敏郎 教授	上坂 裕之 准教授	

本講座の目的およびねらい

コンピュータシステムの取り扱いと、Fortran言語によるプログラミングについて学習する。授業は教科書を中心とした講義を行うとともに、各自が実際にコンピュータを使ってプログラムを作成する演習を行う。達成目標 1. コンピュータの取り扱い方を理解し、各種ソフトウェアや電子メールを正しく利用できる。 2. Fortran 言語を理解し、簡単なFortranプログラムを作成できる。 3. 数値解析のアルゴリズムを理解し、簡単な数値解析プログラムが作成できる。

バックグラウンドとなる科目

特になし

授業内容

1. コンピュータシステムの基礎 (ソフトウェアや電子メールの使い方, 情報セキュリティ研修など) 2. プログラミングの基礎 (プログラム言語, コンパイルと実行など) 3. Fortran文法の基礎 (READ, WRITE, DO, IFなど) 4. Fortran プログラムの基礎 (配列, 関数, サブルーチンなど) 5. 数値解析プログラミング (加減乗除, 面積, 平均値, 数値積分など)

教科書

ザ・Fortran 90/95, 戸川隼人, サイエンス社 (1999)。また, 必要に応じてプリント等を配布する。

参考書

初心者のための FORTRAN77 プログラミング, 第2版, 富田豊他, 共立出版 (1995)

評価方法と基準

達成目標に対しては均等に重みづけして評価する。期末試験50%, レポート課題提出物25%, 受講態度25%で評価し, 100点満点中60点以上を合格とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

情報基礎論 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2年後期	2年後期	2年後期
選択/必修	選択	選択	選択
教員	福澤 健二 教授	伊藤 伸太郎	准教授

本講座の目的およびねらい

情報の形態・伝送，情報の処理，情報の蓄積を扱う情報工学の基礎として，情報量の定義と性質，情報源・通信路モデル，情報源・通信路の符号化等を学習する．

バックグラウンドとなる科目

授業内容

1．情報科学 2．情報量とエントロピー 3．情報源と情報源符号化（記憶のない情報源，エルゴード情報源，マルコフ情報源，瞬時符号，クラフトの不等式，ハフマン符号化，ブロック符号化） 4．通信路と通信路符号化（通信路モデル，通信路容量，情報伝送速度，パリティ検査，ハミング距離，誤り訂正，バースト誤り）

教科書

図解 情報理論入門：野村由司彦（コロナ社）

参考書

情報理論：今井秀樹（昭晃堂） 情報のはなし：大村平（日科技連）

評価方法と基準

筆記試験

履修条件・注意事項

質問への対応

電気回路工学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	2年後期	2年後期	2年後期
選択 / 必修	必修	必修	必修
教員	櫻井 淳平 准教授	鈴木 達也 教授	

本講座の目的およびねらい

回路素子の基本的性質や回路内の動作を現象的に理解した上で、回路の記号解析法、電気回路の動的現象を学び、電気工学における基礎学力を養う。また、機械振動系との類似にも着目し、工学的な総合力を養う。

達成目標

1. 交流回路における記号解析ができる。
2. 線形回路網を閉路方程式にて解析できる。
3. 回路網における各種定理を理解し解析できる。

バックグラウンドとなる科目

電磁気学第1及び演習、線形代数学I

授業内容

1. 直流回路解析
2. 交流回路解析
3. 過渡現象解析
4. 機械振動系とのアナロジ

教科書

基礎電気回路I (第2版) : 有馬・岩崎 (森北出版)

参考書

基礎電気回路 : 雨宮 (オーム社) , 電気回路 : エドミニスター著 (村崎ほか訳) (マグロウヒル)

評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験100点満点で評価し、60点以上を合格とする。

平成23年度以降入学者

100~90点 : S , 89~80点 : A , 79~70点 : B , 69~60点 : C , 59点以下 : F

平成22年度以前入学者

100~80点 : 優 , 79~70点 : 良 , 69~60点 : 可 , 59点以下 : 不可

履修条件・注意事項

質問への対応

講義終了後教室か教員室で受け付ける。

担当教員連絡先 :

鈴木 内線2700, t_suzuki@nuem.nagoya-u.ac.jp

櫻井 内線5289, jsakurai@mech.nagoya-u.ac.jp

精密加工学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3年前期	3年前期	3年前期
選択 / 必修	必修	必修	選択
教員	社本 英二 教授	梅原 徳次 教授	

本講座の目的およびねらい

素材から製品を創出する生産プロセスの中で、製品性能に大きな影響を与える精密加工の基礎として、切削加工、砥粒加工、特殊加工および工作機械について学習する。まず、これらの精密加工 / 加工機が生産プロセス全体の中でどのように位置づけられるかを把握する。次に、各精密加工法について、それぞれ簡明な理論や基礎的な機構、さらに実際の加工プロセスで生じる現象などについて学ぶ。

バックグラウンドとなる科目

なし

授業内容

1. 切削加工 せん断面モデル，せん断角理論 切削温度，切りくず処理性 切削抵抗，切削工具の材種と摩耗 仕上げ面性状とその要因，切削油剤と快削添加物 2. 砥粒加工と特殊加工 研削加工序説，分類，砥石（砥粒，粒度） 砥石（結合剤，結合度，組織），砥粒の切れ刃分布，目つぶれ他 研削の幾何学 高精度研削 遊離砥粒による加工とその材料除去機構 各種特殊加工法

教科書

なし

参考書

なし

評価方法と基準

期末試験により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

履修条件・注意事項

質問への対応

計測基礎論 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3 年前期	3 年前期	3 年前期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	上田 隆司 客員教授		

本講座の目的およびねらい

計測は、科学と工学の基盤であり基礎である。教科書的理論のみならず現実の計測、データおよび信号処理において注意すべき点や、データ収集など、卒業研究などにおいて自ら実験を行う際に基礎となる内容を講義する。

達成目標

基礎力：計測と測定、誤差と精度など用語を正しく理解し、使用できる。

誤差論、データ処理、計測法、信号処理など計測に関する基礎的知識を理解し、説明できる。

応用力：基礎的知識を、実際の計測を行うために応用できる。

創造力・総合力：実際の測定を行うために適切なセンサ及び計測回路と

信号処理、

データ処理を適切に選択することができる。

バックグラウンドとなる科目

数学 1 及び演習、数学 2 及び演習、振動学及び演習、制御工学第 1 及び演習、電機回路工学

授業内容

1. 概要 (計測とは? 工学における計測の重要性)
2. 単位と標準
3. 誤差と精度
4. データ処理の基礎
5. センサとセンシング基礎
6. 信号計測
7. データ収集, 信号処理

教科書

計測システム工学の基礎 第 3 版: 西原主計, 山藤和男, 松田康広 (森北出版)

参考書

特になし

評価方法と基準

試験および数回のレポート

履修条件・注意事項

質問への対応

教員電話: 5 2 2 3 (秦)

メール: hata@mech.nagoya-u.ac.jp

教員電話: 4 4 9 1 (上田)

メール: ueda@mech.nagoya-u.ac.jp

機械・航空工学科概論（2.0単位）

科目区分	専門科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	1 年前期	1 年前期	1 年前期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	各教員（航空宇宙）	各教員（機械科学）	各教員（電子機械）

本講座の目的およびねらい

機械・航空工学科に関連する専門分野の概要を学ぶ。

バックグラウンドとなる科目

授業内容

機械・航空工学科に関連する専門分野の概要と最近のトピックスを紹介する。

教科書

参考書

評価方法と基準

筆記試験及び出席状況

履修条件・注意事項

質問への対応

動的システム論 (2.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3年後期	3年後期	3年後期
選択/必修	選択	選択	選択
教員	宇野 洋二 教授	新井 史人 教授	

本講座の目的およびねらい

非線形システムの安定性を中心とした動的挙動の解析法の基礎を学ぶ。

達成目標

1. 電気系、機械系などの諸物理システムを状態方程式で表現できる。
2. リヤプノフの安定定理を理解し、非線形自律システムの安定性の判別に応用できる。
3. スモール・ゲイン定理や受動定理を理解し、システムの入出力安定性の判別に応用できる。

バックグラウンドとなる科目

制御工学第1及び演習、制御工学第2

授業内容

1. 動的システムの表現
2. 物理システムのモデリング
3. システムの安定性と正定関数
4. リヤプノフの安定定理
5. 大域的漸近安定性
6. 線形近似と安定性
7. 入出力安定
8. 非線形振動システム

教科書

動的システム論、鈴木正之他著 (コロナ社)

参考書

講義資料を適宜配布する。

評価方法と基準

レポート及び試験

履修条件・注意事項

質問への対応

講義終了時に対応する。またメールでの質問も受け付ける。

担当教員連絡先：

<宇野> 内線：2739 E-mail: uno@nuem.nagoya-u.ac.jp

<新井> 内線：5025 E-mail: arai@mech.nagoya-u.ac.jp

材料科学第2 (2.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	3年前期	3年前期	3年前期
選択/必修	選択	選択	選択
教員	秦 誠一 教授	櫻井 淳平 准教授	

本講座の目的およびねらい

金属材料の機械的性質を転位等の内部構造の観点から学ぶ。まず、金属材料の種々の強度特性を概観する。次に、このような強度特性を内部構造に基づいて理解し、さらに強化の機構を微視的観点から学習する

達成目標：

1. 金属材料の塑性変形を転位の観点から説明できる。
2. 転位のエネルギー、すべり系、増殖について説明できる。
3. 降伏現象と転位の関連を説明できる。
4. 強化機構、ひずみ硬化・回復について微視的観点から説明できる。

バックグラウンドとなる科目

材料科学第1，材料力学及び演習

授業内容

1. 固体の強度特性
2. 結晶の理論強度と転位の動き
3. 転位のエネルギーと安定なバーガス・ベクトル
4. すべり面とすべり系
5. 転位の運動と塑性変形の関係
6. 転位の増殖
7. 降伏現象と転位
8. 種々の強化の機構
9. ひずみ硬化および回復
10. 高温での変形機構
11. 試験（期末試験）

教科書

材料科学2（材料の強度特性）：C. R. バレット他，岡村弘之他訳（培風館）

参考書

材料強度の考え方：木村宏（アグネ技術センター），入門転位論：加藤雅治（裳華房）

評価方法と基準

期末試験は下記の通りオプションとする。

原則，毎回の課題の提出とその点数にて評価し，100点満点で採点する。

希望者は，期末筆記試験を受験でき，期末試験の点数と上記点数の高い方を成績とする。

平成23年度以降の入学者は，100点満点で60点以上を合格とし，60点未満はF，60点以上69点までをC，70点以上79点までをB，80点以上89点までをA，90点以上100点までをSとする。

但し、平成22年度以前の入学者については、80点以上をAとする。

履修取り下げ制度は採用しない。「欠席」の評価は原則せず，59点以下は「F」または「不可」とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

授業中の積極的な質問を歓迎する。詳細な質問は授業後かメールにて対応する。

秦教授：

内線 : 5223

E-mail: hata@mech.nagoya-u.ac.jp

櫻井准教授 :

内線 : 5289

E-mail: jsakurai@mech.nagoya-u.ac.jp

材料科学第3 (2.0単位)

科目区分	専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学
開講時期 1	3年後期	3年後期
選択 / 必修	選択	選択
教員	松本 健郎 教授	各教員 (機械科学)

本講座の目的およびねらい

生物が地球上に登場して38億年と言われる。この長い進化の過程を経て、生物は多くの最適性・合目的性を獲得してきた。この中には材料科学に多くの示唆を与える事例も少なくない。本講義では、材料力学ならびに流体力学を基礎として、生体組織や臓器ならびに関連する人工臓器の構造と機能について材料科学の観点から学ぶとともに、そこから得られる最適性・合目的性を理解する。

達成目標

- ・ 生体組織のもつ構造や機能を材料科学の観点から理解し、説明できること
- ・ 生体の機能を理解した上で、人工臓器の原理が説明できること

バックグラウンドとなる科目

材料力学及び演習, 流体力学基礎第1及び演習

授業内容

1. 材料としての生体組織
2. 細胞
3. 筋肉
4. 血液と血流
5. 心臓
6. 血管
7. 呼吸器
8. 骨
9. 関節・靭帯・脊椎
10. 感覚器と神経
11. バイオマテリアル・人工臓器

教科書

随時資料配布

参考書

日本機械学会編：生体機械工学 (丸善)

曾我部正博編：メカノバイオロジー (化学同人)

YC Fung: Biomechanics (Springer)

評価方法と基準

期末試験により目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

履修条件・注意事項

特になし。ただし、体内の構造を示す図や写真などを使用するので、その手のものが苦手な人は注意すること。

質問への対応

担当教員連絡先：未定、講義の最初にお伝えする。

質問は、随時受け付ける。講義時間以外の時間帯は、事前に担当教員にメールで問い合わせること。

流体力学基礎第2 (2.0単位)

科目区分	専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学
開講時期1	2年前期	2年前期
選択/必修	選択	選択
教員	伊藤 靖仁 准教授	山口 浩樹 准教授

本講座の目的およびねらい
流体の基礎的特性とともに、より実用に近い流動についても学ぶ。
次元解析とその応用および流量・流速計測法を学ぶ。管路流れを理解し、管路系の損失の計算法を習得する。

バックグラウンドとなる科目
流体力学基礎第1及び演習

授業内容

1. 次元解析とその応用
2. 流量・流速計測
3. 管路流れの基礎式と損失
4. 管路網
5. 流体中の物体に働く力
6. その他

教科書

流体力学演習：吉野，菊山，宮田，山下 共著（共立出版）

参考書

機械システムコース：
流体力学基礎第2 講義ノート

電子機械工学コース：

道具としての流体力学：山口 浩樹，松本 洋一郎著（日本実業出版社）

水力学に関する教科書

例）流体の力学 水力学と粘性・完全流体力学の基礎：松尾一泰著（オーム社）

流体力学システム工学：菊山功嗣・佐野勝志著（共立出版）

評価方法と基準

機械システムコース：

期末試験で評価する。また課題レポートの提出は評価に加味する。

期末試験の欠席者は「欠席」とする。

電子機械工学コース：

期末試験で評価する。また課題レポートの提出は評価に加味する。

期末試験の欠席者は「欠席」とする。

100点満点中60点以上を合格とする。

平成23年度以降入学者：

S：100～90点，A：89～80点，B：79～70点，C：69～60点，F：59点以下

平成22年度以前入学者：

優：100～80点，良：79～70点，可：69～60点，不可：59点以下

履修条件・注意事項

質問への対応

講義終了時または教員室にて対応する。

流体力学基礎第2 (2.0単位)

担当教員連絡先:

機械システムコース (伊藤) : 内線 4488, email: yito@nagoya-u.jp

電子機械コース (山口) : 内線 2702 email: hiroki@nagoya-u.jp

エネルギー変換工学(2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	電子機械工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	成瀬 一郎 教授

本講座の目的およびねらい

資源・エネルギー・環境の現状を理解した上で、エネルギー変換の基礎を熱力学的に理解するとともに、エネルギー変換技術に係わる熱移動の基礎を学ぶ。達成目標 ・資源・エネルギー・環境の現状を認識する。 ・エネルギー変換プロセスを熱力学的に理解する。 ・熱移動現象の基礎を理解する。

バックグラウンドとなる科目

熱力学及び演習

授業内容

1. 資源・エネルギー概論
2. 環境問題
3. 物質、プロセスおよびシステムの熱力学
4. エネルギー変換プロセスにおける伝熱

教科書

必要に応じプリントを配布する。

参考書

伝熱概論：甲藤好郎著（養賢堂），伝熱学：西川兼康・藤田恭伸共著（理工学社）

評価方法と基準

試験80%，課題レポートを20%で評価

履修条件・注意事項

質問への対応

メールにて対応

機械システム設計(2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学
開講時期 1	3年後期 3年後期
選択/必修	選択 選択
教員	松本 敏郎 教授

本講座の目的およびねらい
コンピュータの発達とともに重要となっているC A E (計算機援用エンジニアリング) の基礎と応用を修得させる。

バックグラウンドとなる科目
計算機ソフトウェア第1 , 数学1 および演習

授業内容
1 . ベクトル解析の基礎 2 . 数理モデルに基づくC A E 3 . 重み付き残差法 3 . 有限要素法 4 . 境界要素法

教科書
未定

参考書

評価方法と基準
筆記試験 , レポート

履修条件・注意事項

質問への対応

振動波動工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学
開講時期 1	3 年前期	3 年前期
選択 / 必修	選択	選択
教員	井上 剛志 教授	

本講座の目的およびねらい
振動および波動現象の基礎とその応用に関する理解を深めることを目的とする。

バックグラウンドとなる科目
力学 1 及び演習，力学 2 及び演習，機構学，振動工学及び演習

授業内容
1．連続体の振動
2．自励振動
3．回転体の振動の初歩
4．非線形振動の初歩

教科書
石田幸男・井上剛志著，「機械振動工学」，培風館

参考書
評価方法と基準
筆記試験（90%）と提出課題（10%）を基に，総合的に100点満点で60点以上を合格とし，60点以上69点までをC，70点以上79点までをB，80点以上89点までをA，90点以上をSとする。
ただし，平成 22 年度以前入学者については次の通り：
60点以上69点までを可，70点以上79点までを良，80点以上を優とする。

履修条件・注意事項
質問への対応
質問への対応：講義終了時を主とするが，予約すればそれ以外の時間も可。

メカトロニクス工学(2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学
開講時期 1	3年後期 3年後期
選択/必修	選択 必修
教員	長谷川 泰久 教授 稲垣 伸吉 准教授

本講座の目的およびねらい
マイクロコンピュータ，センサ，アクチュエータ等から構成されるメカトロニクスシステムについて，基礎と簡単な応用を学ぶ。

バックグラウンドとなる科目
計算機プログラミング，情報処理，デジタル回路，制御工学第1

授業内容
1．メカトロニクスの概要: 2．メカトロニクス系におけるアナログ量と: デジタル量
: 3．ハードウェアとソフトウェアの基礎論理回路，: マイクロコンピュータ，機械語，アセンブラ言語: 4．センサとアクチュエータ: 5．インターフェース，通信: 6．メカトロニクス系の
実際: 7．制御系設計

教科書

参考書

制御用マイコン入門 末松良一著(オーム社)
はじめてのロボット創造設計 米田完，坪内孝司，大隅久(講談社)

評価方法と基準

期末試験100点満点で評価し，60点以上を合格とする

学部：平成23年度以降入学者

100～90点：S，89～80点：A，79～70点：B，69～60点：C，59点以下：F

学部：平成22年度以前入学者

100～80点：優，79～70点：良，69～60点：可，59点以下：不可

履修条件・注意事項

質問への対応

質疑への対応：講義終了後教室か教員室で受け付ける

ロボット工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学
開講時期 1	4 年前期 4 年前期
選択 / 必修	選択 選択
教員	長谷川 泰久 教授

本講座の目的およびねらい
ロボットマニピュレータのモデル化と制御方法の基礎について学ぶ。

バックグラウンドとなる科目
制御工学第 1 及び演習:メカトロニクス工学

授業内容
1 . ロボット工学の概要: (ビデオを交えて世界のロボットを紹介する .) : 2 . 剛体の位置と姿勢: 3 . ロボットの運動学: 4 . ロボットの手先速度と静力学: 5 . ロボットの動力学: 6 . ロボットの軌道計画: 7 . ロボットの力制御

教科書
ロボティクス - モデリングと制御 - 川崎晴久著 共立出版

参考書
ロボティクス - 機構・力学・制御 - John J.Craig 著, 三浦宏文, 下山勲訳 (共立出版)

評価方法と基準
試験またはレポート

履修条件・注意事項
質問への対応

計算機ソフトウェア第2(2.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	講義及び演習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	1年後期	1年後期	1年後期
選択/必修	選択	選択	選択
教員	荒井 政大 教授	森田 康之 准教授	

本講座の目的およびねらい

C言語について学習を行うとともに、科学技術計算に用いられる基本的な数値解析法の理論及びプログラミング手法を学ぶ。

達成目標

1. C言語で書かれたプログラムの内容が理解できる。
2. C言語でプログラムを作成することができる。
3. 基本的な数値解析法を理解し、プログラムにすることができる。

バックグラウンドとなる科目

計算機ソフトウェア第1

数学(微分・積分、線形代数)

授業内容

1. C言語文法 1)変数の型宣言 2)式と演算子 3)制御文 4)関数 5)配列, 他
2. 応用プログラム 1)数値積分 2)微分方程式の解法 3)連立一次方程式の解法, 他

教科書

新版 明解C言語 入門編:柴田望洋(ソフトバンク)

参考書

プログラミング言語C:(共立出版) Numerical Recipes in C:(技術評論社)

評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同じである。

期末試験50%,課題レポート50%で評価し,100点満点で60点以上を合格とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

適宜受け付ける。

連絡先: takeichi@nuae.nagoya-u.ac.jp, ext. 5431, morita@mech.nagoya-u.ac.jp, ext. 4673

数理計画法 (2.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	4 年前期	4 年前期	4 年前期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	田地 宏一 准教授		

本講座の目的およびねらい

数学モデルや数理的手法の応用力を身につけることを目標とし、工学や、経済学に見られるさまざまな数理計画問題（最適化問題）を紹介したあと、制約なし最小化問題、制約付き最小化問題の理論と解法を学ぶ。また、実際に最適化問題を解くためのソフトウェアなども紹介する。

達成目標

1. 与えられた問題を適当な数理計画問題に定式化できる。
2. 定式化された数理計画問題を適当な最適化手法（または適当なソフトウェアを用いて）解くことができる。

バックグラウンドとなる科目

線形代数と微積分，例えば，数学基礎Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，数学Ⅰ及び演習など

授業内容

1. 数理計画問題の例とその定式化
2. 制約なし最小化問題とその解法
3. 制約付き最小化問題とその解法
4. グラフ上の最適化問題
5. 数理計画法のソフトウェア

教科書

福島雅夫：新版 数理計画入門（朝倉書店）

参考書

田村明久，村松正和：最適化法（共立出版）

矢部 博：工学基礎 最適化とその応用（数理工学社）

評価方法と基準

レポート50% + 期末試験50%

平成23年度以降入学者

100～90点：S，89～80点：A，79～70点：B，69～60点：C，59点以下：F

平成22年度以前入学者

100～80点：優，79～70点：良，69～60点：可，59点以下：不可

履修条件・注意事項

質問への対応

<http://www.uno.nuem.nagoya-u.ac.jp/~taji/lecture/lecture.html>

質問への対応 講義終了時の他、時間外も随時受け付けるが、事前に担当教員にメール（アドレスは講義時にお知らせします）で時間を打ち合わせておくこと。

超精密工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学
開講時期 1	3年後期	3年後期
選択 / 必修	選択	選択
教員	秦 誠一 教授	

本講座の目的およびねらい

高度な機械システムに必要な高精度メカニズムを実現する手段としての、先端的加工技術を総合的に学ぶ。

達成目標

基礎力：

精密測定，精密加工にかかわる基礎的知識を理解し，説明できる。

応用力：

基礎的知識を応用し，超精密測定・加工の原理やその装置を理解し，説明できる。

創造力・総合力：

基礎的知識，超精密測定・加工法を総合的に理解し，高精度メカニズムを説明できる。

バックグラウンドとなる科目

精密加工学，材料加工学

授業内容

- (1) 超精密工学とは何か
- (2) 機械加工による高精度の実現
- (3) 機械加工の精度向上を阻害する要因，精度向上のための手段
- (4) 光学レンズの基礎と製作方法・最近の光学利用機器
- (5) 微細加工技術
- (6) Micro-Electro-Mechanical Systems: MEMS技術

教科書

「理工学講座 精密工学」：中沢弘著（東京電機大学出版局），
これに加えて、配付資料は必要に応じて秦研究室のホームページからダウンロードして持参のこと

参考書

生産加工の原理：日本機械学会編（日刊工業新聞社）

評価方法と基準

期末試験は下記の通りオプションとする。

原則，毎回の課題の提出とその点数にて評価し，100点満点で採点する。

希望者は，期末筆記試験を受験でき，期末試験の点数は上記点数に優先して成績とする。

履修取り下げ制度は採用しない。「欠席」の評価は原則せず，59点以下は「F」または「不可」とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

教員連絡先電話：5 2 2 3

メール：hata@mech.nagoya-u.ac.jp

生産システム(2.0単位)

科目区分	専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学
開講時期 1	3年後期	3年後期
選択/必修	選択	選択
教員	社本 英二 教授	上田 隆司 客員教授 田中 智久 准教授

本講座の目的およびねらい

生産システムの概要から始まり、設計における計算機の利用方法、さらに実際の製品に利用される各種工作機械とその周辺分野の基礎的・発展的内容を学ぶことで、製品製造の一連の流れについて知識の習得を目指す。

バックグラウンドとなる科目

授業内容

1. 生産システムの仕組みと生産計画の基礎知識

1 - 1 生産方式

代表的な自動車会社であるフォード自動車、日産自動車、トヨタ自動車を取り上げ、生産方式の違いを通じて生産システムの仕組みと課題を学ぶ。

1 - 2 生産計画

制約の理論、ラインバランス、スケジューリングの考えを習得することにより、生産効率を決定付ける要因の理解とその対策を学ぶ。

2. 機械設計、設計・製造におけるコンピュータの利用

2 - 1 機械設計基礎、安全設計

製品開発の流れと機械設計の意義、および機械類の安全性について学ぶ。

2 - 2 CAD/CAM

設計・製造におけるCAD/CAMの役割について解説し、近年の3次元CADにおける形状表現やCAMにおける加工工程設計などについて学ぶ。

3. 工作機械

3 - 1 工作機械の構造、特性と数値制御

工作機械の種類について概観した後、各構成要素、運動精度と動的/熱的特性、サーボ機構と数値制御の基礎について学ぶ。

3 - 2 特殊加工機、3次元造型機

レーザ加工機、放電加工機、金属粉末積層造型機などを取り上げて、加工の原理・機構・精度と共に加工例について学ぶ。

4. 実際の生産システムと工作機械

実際の工場における生産システム、工作機械の実例を示し、最新の技術や研究開発の動向について学ぶ。

教科書

プリント配布

参考書

評価方法と基準

試験とレポートで評価

履修条件・注意事項

質問への対応

センシング工学(2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学
開講時期 1	3年後期 3年後期
選択/必修	選択 選択
教員	新美 智秀 教授

本講座の目的およびねらい

科学、工学の発展に必要な先端的なセンシング技術の基礎から応用までを多くの事例から習得するとともに、光応用センシング技術および画像応用センシング技術を習得する。 達成目標

1. センシングシステムの構成を説明できる。 2. センシングデータの処理法(最小2乗法など)を説明できる。 3. センシングデバイスの変換原理を説明できる。 4. 光/画像応用センシング技術に関連した計測原理を説明できる。

バックグラウンドとなる科目

計測基礎論

授業内容

1. センシング工学の基礎
2. センシングの目的と方式
3. 人間に学ぶセンシングシステム
4. センシングデータの処理と評価
5. センシングデバイスに利用されている変換原理
6. 光応用センシング技術
9. 画像応用センシング技術

教科書

センシング工学：新美智秀(コロナ社)

参考書

評価方法と基準

期末試験100%，ただし，演習課題の提出率が90%未満のものは受験資格無し。

平成23年度以降入学者

100～90点：S，89～80点：A，79～70点：B，69～60点：C，59点以下：F

平成22年度以前入学者

100～80点：優，79～70点：良，69～60点：可，59点以下：不可

履修条件・注意事項

質問への対応

講義終了時に対応する。時間外の質問は事前に担当教員に連絡すること。

電気回路工学演習(0.5単位)

科目区分	専門科目
授業形態	演習
対象履修コース	電子機械工学
開講時期 1	2年後期
選択/必修	必修
教員	鈴木 達也 教授

本講座の目的およびねらい
問題を解くことにより、電気回路工学で学ぶ内容の理解を深め、応用力をつける。

バックグラウンドとなる科目
電気回路工学、電磁気学第1及び演習

授業内容
「電気回路工学」の講義に対応

教科書
基礎電気回路I(第2版):有馬・岩崎 共著(森北出版)

参考書
基礎電気回路:雨宮(オーム社), :電気回路:エドミニスター著(村崎ほか訳)(マグロウヒル)

評価方法と基準
出席状況およびレポート課題

履修条件・注意事項

質問への対応
質疑への対応:講義終了後教室か教員室で受け付ける

電子回路工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3年前期	3年前期	3年前期
選択 / 必修	選択	必修	選択
教員	長野 方星 教授	高木 賢太郎 准教授	

本講座の目的およびねらい

等価回路による物理的な解釈を重視しながら、アナログ電子回路の基本動作と応用回路を学習する。

達成目標：

1. 電子回路と半導体の基礎がわかる
2. 小信号等価回路がわかる
3. トランジスタを用いた基本増幅回路がわかる

バックグラウンドとなる科目

電気回路工学

授業内容

1. 電子回路の基礎 (受動素子・能動素子の種類と特性, 増幅の原理)
2. 半導体
3. 小信号等価回路
4. 基本増幅回路 (バイアス回路, 接地形式と増幅率)
5. 負帰還増幅の原理と安定性

教科書

本質を学ぶためのアナログ電子回路入門：宮入圭一監修，阿部克也著（共立出版）

参考書

現代 電子回路学 [1]：雨宮好文（オーム社）

アナログ電子回路：石橋幸男（培風館）

評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等である。

期末試験及びレポートを基に，100点満点で総合点60点以上を合格とする。

・平成23年度以降入学者：

100～90点を「S」，89～80点を「A」，79～70点を「B」，69～60点を「C」，59点以下を「F」とする。

・平成22年度以前入学者：

100～80点を「優」，79～70点を「良」，69～60点を「可」，59点以下を「不可」とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

基本的には講義終了時に対応する。それ以外は，担当教員に電話かメールで連絡すること。連絡先は講義中に周知する。

デジタル回路(2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	電子機械工学
開講時期 1	3年後期
選択/必修	選択
教員	高木 賢太郎 准教授

本講座の目的およびねらい

実際に設計・製作することを目的に、デジタル回路の基礎と応用を学習する。

達成目標：

1. 論理回路における数の表現がわかる
2. 論理回路の基礎がわかる
3. デジタルICの基礎がわかる
4. デジタル回路の応用がわかる

バックグラウンドとなる科目

電気回路工学，電子回路工学

授業内容

1. 電子部品の基礎知識（抵抗，コンデンサ，コイル，ダイオード，トランジスタ）
2. 論理回路における数の表現（2進数，16進数，BCDコード）
3. 論理回路の基礎（基本ゲート回路，正論理と負論理，MIL記号，NAND・NOR ゲート，ブール代数，論理関数）
4. デジタルICの基礎（TTL IC，C-MOS IC，C-MOS とTTLのインタフェース，ゲートIC の特殊機能）
5. デジタル回路の応用（フリップフロップ，ラッチ，カウンタ，数字表示回路，エンコーダとデコーダ，アナログスイッチ，マルチバイブレータ）

教科書

メカトロニクスのための電子回路基礎：西堀賢司（コロナ社）

参考書

デジタル回路：五島正裕（数理工学社）

評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験による評価と課題レポートによる評価とで100点満点とし、60点以上を合格とする。

・平成23年度以降入学者：

100～90点を「S」、89～80点を「A」、79～70点を「B」、69～60点を「C」、59点以下を「F」とする。

・平成22年度以前入学者：

100～80点を「優」、79～70点を「良」、69～60点を「可」、59点以下を「不可」とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義中ならびに講義後に適宜受け付ける。それ以外は、担当教員に電話かメールで連絡すること。連絡先は講義中に周知する。

アクチュエータ工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	電子機械工学
開講時期 1	4 年前期
選択 / 必修	選択
教員	大岡 昌博 教授

本講座の目的およびねらい

ロボット・メカトロ機器の基本要素となっているアクチュエータについて基礎となる原理から先端アクチュエータまで幅広く学ぶ。最先端の研究成果を肌で感じてもらうために、東京大学、東京工業大学、慶応大学、名古屋大学など研究されている最新アクチュエータを動画により紹介する。達成目標 1. アクチュエータの原理の理解 2. アクチュエータ研究の周辺技術の理解 3. 先端アクチュエータの理解

バックグラウンドとなる科目

数学および物理学の基礎的内容

授業内容

1. 静電気アクチュエータ 2. 電磁力アクチュエータ 3. 圧電アクチュエータ 4. 流体圧アクチュエータ 5. 機能性流体アクチュエータ 6. 形状記憶合金アクチュエータ 7. メカノ・ケミカル・アクチュエータ 8. アクチュエータの制御理論 9. 先端アクチュエータの応用

教科書

アクチュエータ工学：アクチュエータシステム技術企画委員会編（養賢堂）

参考書

評価方法と基準

レポート（5回程度を予定）の内容で決める。

履修条件・注意事項

質問への対応

<http://ns1.ohka.cs.is.nagoya-u.ac.jp/>

質問への対応：講義終了時や適当な時間に対応する。

担当教員連絡先：ohka@is.nagoya-u.ac.jp

信号処理 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	電子機械工学 航空宇宙工学
開講時期 1	3年後期 3年後期
選択 / 必修	選択 選択
教員	大岡 昌博 教授

本講座の目的およびねらい

信号処理系の解析，機械振動系の解析，生体信号の分析など，幅広い分野で利用される信号処理は，信号を正確に効率よく伝送・記憶し，信号からさまざまな情報を抽出するために行われる．本講義では，フーリエ変換からデジタルフィルタの設計まで，信号処理の基礎理論を解説する．

バックグラウンドとなる科目

数学1及び演習， 数学2及び演習， 制御工学第1及び演習， 制御工学第2

授業内容

第1回 信号処理とは，第2回 信号処理の例，第3回 数学的準備，第4回 フーリエ級数展開，第5回 離散フーリエ変換と高速フーリエ変換，第6回 フーリエ変換1，第7回 フーリエ変換2（レポート課題1），第8回 フーリエ変換の応用，第9回 線形システムの解析，第10回 z変換，第11回 離散システムの解析，第12回 サンプリングと窓，第13回 フィルタ，第14回 デジタルフィルタ（レポート課題2），第15回 演習問題

教科書

浜田望，よくわかる信号処理，オーム社

参考書

雨宮好文 監修 / 佐藤幸男 著，信号処理入門，オーム社

野村由司彦，図解 情報処理入門，三ツ星出版

信号処理工学 - 信号・システムの理論と処理技術 - ，今井聖 著，コロナ社

評価方法と基準

レポートおよび筆記試験

履修条件・注意事項

質問への対応

質問への対応：講義終了時や適当な時間に対応する。

担当教員連絡先：ohka@is.nagoya-u.ac.jp

講義録：http://ns1.ohka.cs.is.nagoya-u.ac.jp/new_page_8.htm

最適制御理論 (2.0単位)

科目区分	専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	4年後期	4年後期
選択 / 必修	選択	選択
教員	原 進 教授	

本講座の目的およびねらい

3年次までの制御工学に関する学習内容を復習しつつ、実際の応用も考慮した最適制御理論に関する講義を行う。

バックグラウンドとなる科目

制御工学第1及び演習，制御工学第2

授業内容

1. システムの記述
2. 応答と安定性
3. 座標変換
4. 可制御性・可観測性
5. 最適レギュレータ
6. サーボ系
7. 状態観測器

教科書

森 泰親，わかりやすい現代制御理論，森北出版，(2013)

参考書

評価方法と基準

試験40%，レポート60%で評価する。

100点満点で60点以上を合格とし，60点以上69点までをC，70点以上79点までをB，80点以上89点までをA，90点以上をSとする。

ただし，平成22年度以前入学者については次の通り：

60点以上69点までを可，70点以上79点までを良，80点以上を優とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義終了時を主とするが，メールで予約すればそれ以外の時間も可。

機械・航空工学科設計製図第1(1.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	実習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	3年前期	3年前期	3年前期
選択/必修	必修	必修	必修
教員	上坂 裕之 准教授	鈴木 教和 准教授	

本講座の目的およびねらい

機械製図は機械設計と製作を結びつける一種の言語であり、ものづくり教育において必要不可欠な基礎科目である。本講義を通じて2次元機械製図の基礎を幅広く理解し、実習における製図課題を通じてCAD製図を体験することで、機械製図を習得することを目的とする。さらに、3次元CADによる形状設計を体験するとともに、CAMを用いて立形マシニングセンタの加工データを生成して実際の加工も体験することで、設計から製造工程につながるコンピュータ援用技術を習得する。これらの学習を通じて、機械工学における基礎力を身につける。

バックグラウンドとなる科目

図学、機構学、

授業内容

(1) 機械図面の基礎・体系に関する講義

図面の基本様式と投影法

寸法の記入方法

主要な機械部品の図示法(ねじ, ばね, 歯車, 転がり軸受)

寸法公差および幾何公差の図示法

表面性状の図示法

(2) CAD製図実習

第三角法による製図

寸法の記入

寸法公差, 幾何公差および面の肌の図示

3次元モデリング

図面情報に基づいた組み付け部品の設計

(3) CAM実習

CAMソフトによる実習

マシニングセンタによる切削加工の実習

教科書

必要な講義資料を講義室で配布する。

「JISにもとづく標準製図法：大西清、オーム社」を参考書として利用すること。

CAD実習やスケジュール, 締切, 評価結果, 緊急の連絡などについては下記ウェブサイトを通じて公開する。

<http://mx45.cadcam.etcch.engg.nagoya-u.ac.jp/>

参考書

機械製図 理論と実際：服部延春(工学図書)

JISハンドブック59製図：(日本規格協会)

機械工学便覧 1 設計工学：(日本機械学会編)

精説 機械製図：和田稲苗ほか(実教出版)

評価方法と基準

提出課題の成績やCAM実習への参加状況によって総合的に評価する。

履修条件・注意事項

質問への対応

基本的に、実習中あるいは講義後に対応する。

教員の連絡先は下記ウェブサイトに記載する。

機械・航空工学科設計製図第2 (1.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	実習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期1	3年後期	3年後期	3年後期
選択/必修	必修	必修	必修
教員	関山 浩介 准教授	高橋 徹 准教授	

本講座の目的およびねらい

4自由度ロボットマニピュレータの設計および製図を行う。

バックグラウンドとなる科目

機械・航空工学科設計製図第1

メカトロニクス工学

授業内容

1. ロボットマニピュレータの基礎概念 (機構, 構造, センサ, アクチュエータ, 制御器)
2. 強度計算
3. 伝達機構の設計
4. ベアリング・モータの原理と選定
5. 部品図・組立図の製図

教科書

参考書

マイコン制御ハンドロボット (設計・製作・制御), 洞 啓二・堀尾惇也著 (パワー社)

評価方法と基準

設計レポートおよび製図レポートを総合的に評価する。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義終了時に対応する。

担当教員連絡先:

関山, 052-789-3116, sekiyama@me.in.nagoya-u.ac.jp

高橋, 052-789-5333, ttaka@nuem.nagoya-u.ac.jp

浅井, 052-789-3854, asai@nuem.nagoya-u.ac.jp

機械創造設計製作（2.0単位）

科目区分	専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学
開講時期 1	2年後期	2年後期
選択/必修	選択	選択
教員	新井 史人 教授	丸山 央峰 准教授

本講座の目的およびねらい
機械技術者として必要な創造的設計力の習得のため、与えられたテーマに関し、構想、設計、製作、実演までの一貫したプロセスを体験させる。

バックグラウンドとなる科目
知的好奇心、想像力、忍耐力

授業内容
1．創造設計の意識と重要性: 2．テーマの説明: 3．設計と製作の指針: 4．グループによる設計、製作: 5．作品の実演

教科書

参考書
講義中に紹介する。

評価方法と基準
レポート及び製作、実演の成果

履修条件・注意事項

質問への対応
講義終了時に対応する。

機械・航空工学科実験第1(1.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	実験及び実習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	
開講時期1	3年前期	3年前期	
選択/必修	必修		
教員	関山 浩介 准教授	稲垣 伸吉 准教授	松田 佑 准教授
	溝尻 瑞枝 助教	伊藤 大輔 助教	岩野 耕治 助教
	中村 慎一郎 助教	徳 悠葵 助教	植木 保昭 助教
	中島 正博 助教	藤巻 俊介 助教	有泉 亮 助教
	香川 高弘 助教	飯盛 浩司 助教	

本講座の目的およびねらい

専門基礎科目における重要基礎概念や法則により予測される諸現象、およびそれらを応用した技術を実地に体感させる。

バックグラウンドとなる科目

他の専門基礎科目

授業内容

10数テーマを1グループ数人ずつで実験し、各テーマ毎にレポートを提出する。なお、テーマ名は各期が開始する前に公表される。

教科書

各コースで用意する手引書

参考書

評価方法と基準

レポート：全レポートの平均点により評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

実験中ならびに実験後に適宜対応する。

機械・航空工学科実験第2(1.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	実験及び実習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	
開講時期1	3年後期	3年後期	
選択/必修	必修	必修	
教員	関山 浩介 准教授	稲垣 伸吉 准教授	松田 佑 准教授
	溝尻 瑞枝 助教	伊藤 大輔 助教	岩野 耕治 助教
	中村 慎一郎 助教	徳 悠葵 助教	植木 保昭 助教
	中島 正博 助教	有泉 亮 助教	香川 高弘 助教
	飯盛 浩司 助教		

本講座の目的およびねらい

専門基礎科目における重要基礎概念や法則により予測される諸現象、およびそれらを応用した技術を実地に体感させる。

バックグラウンドとなる科目

他の専門基礎科目

授業内容

複数テーマを1グループ数人ずつで実験し、各テーマ毎にレポートを提出する。なお、テーマ名は各期が開始する前に公表される。

教科書

各コースで用意する手引書

参考書

評価方法と基準

レポート：全レポートの平均点により評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

実験中ならびに実験後に適宜対応する。

工場実習（1.0単位）

科目区分	専門科目		
授業形態	実習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3年前期	3年前期	3年前期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	各教員（機械情報）		

本講座の目的およびねらい

企業・団体等のインターンシップに参加し実社会に触れることにより、実社会の現状を把握し学習意欲を向上させ、今後の学生生活に生かす。また、実際の工場現場での実習体験を通して、現場で役立つエンジニアに求められている資質を身に付ける。

バックグラウンドとなる科目

授業内容

冊子「インターンシップの手引」を参照すること

教科書

参考書

評価方法と基準

原則として、事前指導・事前研修、インターンシップの実施状況、実施報告書（実習内容、感想など）、実習先の会社からの実習認定書をもとに評価を行う。必要に応じてインターンシップ実施企業等に実施状況をヒアリングする。

履修条件・注意事項

質問への対応

3年生クラス担任が対応する。

工場見学 (1.0単位)

科目区分	専門科目		
授業形態	実習		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	3 年前期	3 年前期	3 年前期
開講時期 2	3 年後期	3 年後期	3 年後期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	各教員 (機械情報)		

本講座の目的およびねらい

1) 大学で学んだことが各種の企業においてどのように利用されているのか, 2) 企業において必要とされる素養が何であるのか, 3) 日本の企業における生産や研究のレベルはどの程度であるのか等を実際に確認することを目的とする.

バックグラウンドとなる科目

授業内容

実際の工場見学および質疑応答

教科書

参考書

評価方法と基準

出席及び見学レポート

履修条件・注意事項

質問への対応

機械・航空工学特別講義（1.0単位）

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学
開講時期 1	4 年前期 4 年前期
選択 / 必修	選択 選択
教員	非常勤講師（子機） 非常勤講師（機科）

本講座の目的およびねらい
機械・航空工学の最近のテーマについて，他大学，企業などからの講師による講義を聞き，工学の現状と動向を探る．

バックグラウンドとなる科目

授業内容
機械・航空工学の最近のテーマについて，他大学，企業などからの講師により講義を行う．

教科書

参考書

評価方法と基準

履修条件・注意事項

質問への対応

卒業研究A (2.5単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	電子機械工学
開講時期 1	4年前期
選択 / 必修	必修
教員	各教員 (電子機械)

本講座の目的およびねらい

特定のテーマについて研究を行う中で、研究の進め方、問題解決の方法、論理的な記述法、発表方法について、基礎知識を応用する総合能力を身につける。

バックグラウンドとなる科目

授業内容

教科書

参考書

評価方法と基準

口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

履修条件・注意事項

質問への対応

卒業研究B (2.5単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	電子機械工学
開講時期 1	4年後期
選択/必修	必修
教員	各教員(電子機械)

本講座の目的およびねらい

特定のテーマについて研究を行う中で、研究の進め方、問題解決の方法、論理的な記述法、発表方法について、基礎知識を応用する総合能力を身につける。

バックグラウンドとなる科目

授業内容

教科書

参考書

評価方法と基準

口頭発表とそれに対する質疑応答により評価する。

履修条件・注意事項

質問への対応

工学概論第1(0.5単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	1年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

本講座の目的およびねらい
社会の中核で活躍する名古屋大学の先輩による広く深い体験を踏まえた講義を受講することにより、工学系技術者・研究者として必須の対人的・内面的な人間力を涵養するとともに、自らの今後の夢を描き勉学の指針を明確化する。

バックグラウンドとなる科目
なし

授業内容
「がんばれ後輩」として、社会の中核で活躍する先輩が授業を行う。

教科書
なし

参考書
なし。講義の際にレジメが配られることもある。

評価方法と基準
講師の授業内容に関連して、簡単な課題のレポート提出により評価する。

履修条件・注意事項
質問への対応
教務課の担当者にたずねること。

工学概論第2 (1.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

本講座の目的およびねらい

世界は地球温暖化問題に直面し、低炭素型の社会形成が課題となっている。本講義では日本のエネルギー需給の概要を把握するとともに、省エネルギーや再生可能エネルギー技術およびその導入促進策の動向について理解することを目的とする。また、我が国のエネルギー政策の指針となる「エネルギー基本計画」について解説する。

バックグラウンドとなる科目

特になし

授業内容

1. 日本のエネルギー事情
2. 日本のエネルギー政策とエネルギー基本計画
3. 太陽エネルギー利用技術
4. 排熱利用による省エネルギー技術
5. 低炭素型社会に向けた仕組み作り～環境モデル都市の取り組み例
6. 「エネルギー検定」をやってみよう

講義中に新エネルギー等に関するアンケート調査を実施する。その集計結果を全国調査の結果と比較する予定。

教科書

特になし

参考書

参考資料を講義中に配布する

評価方法と基準

2日間の講義それぞれでレポート課題を出し、その場で提出する。レポートの内容によって評価する。

履修条件・注意事項

質問への対応

集中講義のため、質問は講義時間中に受け付ける。

工学概論第3(2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年後期
選択/必修	選択
教員	レレイト エマニュエル 講師 曾 剛 講師 西山 聖久 講師

本講座の目的およびねらい

日本の科学技術と題して、日本における科学技術について、英語で概論説明するものである。

バックグラウンドとなる科目

なし

授業内容

日本の科学と技術における各分野の発展の歴史や先端技術について、ビデオや先端企業の見学を通して紹介する。日本が世界において科学的および技術的に果たす役割について討論し、理解を深める。

教科書

なし

参考書

なし

評価方法と基準

出席30%、レポート40%、発表30%

履修条件・注意事項

質問への対応

授業中及び授業後に対応する

工学概論第4(3.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	1年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

本講座の目的およびねらい

【初級】この授業は、日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。日本での日常生活を送るために基本的なレベルの日本語の能力を養成することを目的とする。とくに、日本での日常生活を送るために必要な初歩的な文法、表現を学び、会話力を中心とした日本語の能力を養成する。

【中級】初級中盤終了、初級終了の学生を対象に、日本人との日常的会話、各自のこれまでの経験、出来事をより具体的に説明するため必要なレベルの日本語能力を養成することを目的とする。

ただし、学習歴に応じて、中上級、上級内容に変更する場合がある。

バックグラウンドとなる科目

【初級】なし

【中級】日本語初級レベルの科目

授業内容

【初級】1.日本語の発音 2.日本語の文の構造 3.基本語彙・表現 4.会話練習
5.聴解練習

【中級】1 文法, 2 会話, 3 意見表明と理由提示, 4 読解, 5 聴解

教科書

【初級】NIHONGO Breakthrough, From survival to communication in Japanese, JAL アカデミー, アスク出版

【中級】weekly J : 日本語で話す6週間, 凡人社

参考書

評価方法と基準

【初級】出席20%、クラスパフォーマンス・課題提出20%、インタビューテスト及び筆記試験30%、日本語プレゼンテーション30%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

【中級】出席20%、クラスパフォーマンスと課題提出10%、オーラルテスト20%、筆記試験20% 日本語プレゼンテーション30%

履修条件・注意事項

質問への対応

講義終了時に対応する。 担当教員連絡先：内線 6797 ishida@nuem.nagoya-u.ac.jp

工学倫理 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期 1	1年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

本講座の目的およびねらい

技術は社会や自然に対して様々な影響を及ぼし種々の効果を与えています。それらに関する理解力や責任など、技術者の社会に対する責任について考え、自覚する能力を身につけることをめざします。

バックグラウンドとなる科目

全学教養科目(科学・技術の倫理、科学技術史、科学技術社会論) 文系教養科目(科学・技術の哲学)

授業内容

1. 工学倫理の基礎知識 2. 工学の実践に関わる倫理的な問題

教科書

黒田光太郎、戸田山和久、伊勢田哲治編『誇り高い技術者になろう[第2版]-工学倫理ノススメ』(名古屋大学出版会)

参考書

C. ウィットベック(札幌野順, 飯野弘之共訳)『技術倫理』(みすず書房), 斎藤了文・坂下浩司編, 『はじめての工学倫理』(昭和堂), C. ハリス他著(日本技術士会訳編)『科学技術者の倫理-その考え方や事例-』(丸善), 米国科学アカデミー編(池内了訳)『科学者をめざすきみたちへ』(化学同人)

評価方法と基準

レポートにより成績評価を行う。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点をA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入学者については、60点から69点を可、70点から79点を良、80点以上を優とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義時間終了後およびメールで対応します。メールアドレスは初回講義で知らせます。

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年後期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

本講座の目的およびねらい
製造業を中心とする企業経営において、その成長・発展に不可欠な技術革新のマネジメントを学ぶ。経営学、組織論、経済学、技術史などの多様な観点から学習する。

バックグラウンドとなる科目

授業内容

1. 技術経営(MOT)と経営戦略
2. 経営とアーティファクト(人工物)
3. イノベーションを実現するための組織
4. 科学・技術・価値観
5. 技術革新と組織学習

教科書

参考書

講義中、必要に応じて紹介する。

評価方法と基準

毎回の講義終了前にその日の講義内容を振り返るため小テストを行い、最終的にレポートを提出してもらう。平常点50%、レポート点50%で評価を行う。なお、1/3以上の欠席がある場合には、レポートの提出を認めない。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義内容についての質問は、講義中に対応する。

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期 1	4年後期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

本講座の目的およびねらい

具体的な経済問題について検討しつつ、一般社会人として必要な経済の知識を習得し、同時に経済学的な思考を学ぶ。達成目標 1. 一般社会人として必要な経済知識の習得 2. 経済学的な思考の理解・習得

バックグラウンドとなる科目

社会科学全般

授業内容

1. 経済循環の構造...ギブ・アンド・テイク 2. 景気の変動...好況と不況 3. 外国為替レート...円高と円安 4. 政府の役割...歳入と歳出 5. 日銀の役割...物価の安定と信用秩序の維持 6. 人口問題...過剰人口と過少人口 7. 経済学の歴史...スミスとケインズ 8. 自由市場経済...その光と影 9. 第二次世界大戦後の日本経済...インフレとデフレ

教科書

中矢俊博『入門書を読む前の経済学入門』第三版(同文館)

参考書

P. A. サムエルソン, W. D. ノードハウス『経済学』(岩波書店)
宮沢健一(編)『産業連関分析入門』<新版>(日経文庫, 日本経済新聞社)
尾崎巖『日本の産業構造』(慶應義塾大学出版会)

評価方法と基準

期末試験により、目標達成度を評価する。

<<平成22年度以前入学生>>

100点満点で60点以上を合格とし、

60点以上69点までを可、70点以上79点までを良、80点以上を優とする。

<<平成23年度以降入学生>>

100点満点で60点以上を合格とし、

60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

履修条件・注意事項

質問への対応

講義時間の前後に、講義室にて対応する。

特許及び知的財産（1.0単位）

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期 1	4年後期
選択/必修	選択
教員	鬼頭 雅弘 教授

本講座の目的およびねらい

- ・ 大学や企業の研究者や技術者からみた特許の必要性和意義を理解する
- ・ 特許の基本知識を習得し、発明した研究者・技術者が何をすべきかを習得する

到達目標

1. 特許制度の目的と必要性を理解する
2. 特許出願の手続きと、出願書類の書き方の基礎を理解する
3. 基礎的な特許調査ができる
4. 企業や大学が特許をどのように利用するかが分かる

バックグラウンドとなる科目

特になし

授業内容

1. 知的財産と特許の狙い
2. 日本の特許制度
3. 外国の特許制度、模倣品の話、特許調査の導入部分
4. 特許調査を体験する（一部演習）
5. 特許出願の書類の作成を体験する-1（一部演習）
6. 特許出願の書類の作成を体験する-2（一部演習）
7. 国際標準化と特許戦略
8. 企業や大学の特許マネジメント

教科書

参考書

特になし

評価方法と基準

毎回講義終了時に出题するレポートで評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

履修条件・注意事項

質問への対応

- ・ 原則、講義終了時に対応する。必要に応じて教員室で対応
- ・ 教員室： ナショナルイノベーションコンプレックス3階311
- ・ 担当教員連絡先：内線3924 mkito@aip.nagoya-u.ac.jp

自動車工学 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目	
授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学
開講時期 1	4 年前期	4 年前期
選択 / 必修	選択	選択
教員	水野 幸治 教授	

本講座の目的およびねらい

力学により自動車工学の基礎理論を理解する。
自動車開発の技術者により自動車技術の最先端について学ぶ。

達成目標

1. 自動車の力学を理解する。
2. 自動車の構造とメカニズムを理解する。
3. 自動車の開発について学ぶ。

バックグラウンドとなる科目

機械力学

授業内容

1. 自動車の基本構造
2. エンジン
3. トランスミッション
4. 車体とタイヤの力学
5. 運動性能
6. 安全
7. 自動車開発
8. 部品開発

教科書

参考書

自動車工学 基礎 (自動車技術会)

Fundamentals of Vehicle Dynamics (Thomas Gillespie著)

評価方法と基準

試験により目標達成度を評価する。60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。

履修条件・注意事項

質問への対応

生産工学概論 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
開講時期 1	4 年前期	4 年前期	4 年前期
選択 / 必修	選択	選択	選択
教員	水野 幸治 教授		

本講座の目的およびねらい

日本を代表する企業からの講師陣による英語の講義から、現代日本の生産工学の理解を深め、英語の授業が理解できる能力を身につける。

バックグラウンドとなる科目

なし

授業内容

1．自動車産業における生産管理論 2．自動車部品生産システム 3．航空宇宙産業における生産管理 4．ポンプ産業における生産システム 5．ハードディスクにおけるナノ・テクノロジー

教科書

資料を配布

参考書

なし

評価方法と基準

レポート

履修条件・注意事項

質問への対応

十分な英語能力を必要とする。

職業指導（2.0単位）

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期 1	4年後期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師（教務）

本講座の目的およびねらい

本科目は、高等学校教諭免許「工業」を取得するための必須科目です。高等学校における職業指導の目的と意義、勤労観・職業観を育成するために行われている実践的な職業指導、進路指導、及びキャリア教育等について学びます。特に、職業の今日的な課題についての学習を踏まえ、職業人として意欲を持ち、主体的な意思や態度で自らのキャリア形成を図るために行う支援について、具体的なプロセスを学ぶ

- 1 産業社会における工業の意義、役割、貢献等を習得する。
- 2 産業社会で求められる職業人像について考える。
- 3 社会人としての基礎力を身に付ける。
- 4 キャリア形成における自己実現を目指すプロセスを考察する。
- 5 職業指導における今日的課題について考察する。

バックグラウンドとなる科目

現代社会、国際社会、政治・経済、歴史、教育発達心理学など

授業内容

- 1・2 社会状況の変化と「職業指導」の変遷
- 3・4 現代の産業構造とキャリア形成に向けて
- 5・6 高等学校における職業指導、キャリア教育の実際
- 7・8 職業指導の方法と実際 進路指導とカウンセリング技術
- 9・10 キャリア・マネジメント、キャリア・アンカーと進路指導
- 11・12 学校の組織力及び教職員の資質向上の取り組み
- 13・14 職業指導の具体事例（自己実現を目指すプロセスと評価）
- 15 「試験問題」の出題

教科書

特に指定しない。（必要に応じて、プリントを適宜配付）

参考書

- 「厚生労働白書」 H26年版（厚生労働省）
「進路指導・キャリア教育の理論と実践」吉田辰著（日本文化科学社）
「教育の職業的意義」本田由紀著（ちくま書房）
「若者と労働」濱口桂一郎著（中公新書ラクレ） 等
その他、参考文献は講義中に紹介する。

評価方法と基準

期末試験、課題レポート、出席状況等での絶対評価

履修条件・注意事項

特になし

質問への対応

授業項目に関する質疑応答措置

国際工学セミナー（2.0単位）

科目区分	関連専門科目						
授業形態	セミナー						
対象履修コース	応用化学	分子化学工学	生物機能工学	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	電気電子工学
	情報工学	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	環境土木工学	建築学	
開講時期 1	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期
	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期
開講時期 2	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期
	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期
選択 / 必修	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
教員	各教員						

本講座の目的およびねらい
 外国の大学に在学中の学生が、日本の研究開発を実体験する。総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成する。基礎知識，研究能力，コミュニケーション能力の向上を目指す。

バックグラウンドとなる科目
 工学全般、英語、技術英語

授業内容
 名古屋大学で研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け，レポート提出などを行う。

教科書
 研究内容に応じ指導教員から指定される。

参考書
 研究内容に応じ指導教員から指定される。

評価方法と基準
 指導教員により，基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて総合評価する。合格と評価された場合，
 30日以上90日以下、工学部の学科に在籍し指導教員の元で研究に従事した場合2単位
 91日以上180日未満、工学部の学科に在籍し指導教員の元で研究に従事した場合4単位
 が認められる。

履修条件・注意事項
 外国の大学に在学中の学生で、当該大学から本学部に研究指導を依頼された学生（受入身分は特別聴講学生）を対象とする
 1か月～6か月未満の集中講義とする

質問への対応

国際工学セミナー（4.0単位）

科目区分	関連専門科目						
授業形態	セミナー						
対象履修コース	応用化学	分子化学工学	生物機能工学	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	環境土木工学
開講時期 1	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期
	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期
	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期
開講時期 2	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期
	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期
	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期
選択 / 必修	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
教員	各教員						

本講座の目的およびねらい
 外国の大学に在学中の学生が、日本の研究開発を実体験する。総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成する。基礎知識，研究能力，コミュニケーション能力の向上を目指す。

バックグラウンドとなる科目
 工学全般、英語、技術英語

授業内容
 名古屋大学で研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け，レポート提出などを行う。

教科書
 研究内容に応じ指導教員から指定される。

参考書
 研究内容に応じ指導教員から指定される。

評価方法と基準
 指導教員により，基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて総合評価する。合格と評価された場合，
 30日以上90日以下、工学部の学科に在籍し指導教員の元で研究に従事した場合2単位
 91日以上180日未満、工学部の学科に在籍し指導教員の元で研究に従事した場合4単位
 が認められる。

履修条件・注意事項
 外国の大学に在学中の学生で、当該大学から本学部に研究指導を依頼された学生（受入身分は特別聴講学生）を対象とする
 1か月～6か月未満の集中講義とする

質問への対応